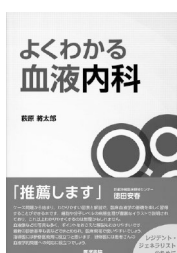


書評

[評者]
本郷偉元
関東労災病院感染症内科部長



よくわかる血液内科

萩原 将太郎 著

● A5 頁284 2018年1月
定価：本体 3,800 円＋税
[ISBN978-4-260-03207-0] 医学書院刊

本書の著者は、私の初期研修病院の先輩である萩原将太郎先生である。同院では在籍期間が重ならず、直接のご指導は受けなかったが、武勇伝はいくつも伺ったことがあった。萩原先生が内地に戻られて少し経った頃からであろうか、今に至るまでご指導ご厚誼をいただいている。

本書は、専門家として、内科医として、そして教育者として、そのどれもで超一流であり、何より努力家である萩原先生の真骨頂とも言える魅力に溢れている。専門家としての側面は、さまざまな疾患や病態の機序を基礎医学の面からもわかりやすく解説されている点、最新の診断基準が豊富に記載されている点などに垣間見ることができる。内科医としての側面は、症例の身体所見で腱反射などの神経学的診察、IV音、IIp 亢進、眼底所見などを記載している点、p 105 の「もちろん結核は常に除外すべき疾患です！」というコメントや p 184 にランセット状のグラム陽性双球菌である肺炎球菌の喀痰グラム染色写真を載せている点などからもにじみ出てくる。教育者としての側面は、解説がクリアカットで教わる側の立場を大事にしている点、末梢血塗抹を医師が実際に見ることの重要性を強調していること、症例の解説で思考経路を的確に示していることなどから伝わってくる。

「クリニカルパール」にはまさにパールがコンパクト

にまとめられている。コラム、サイドメモには、教えてもらわないと気付かないこと、今さら聞けないことなどがさらりと述べられている。

本書は、医学誌『JIM』『総合診療』に2年間連載された内容と、有名研修病院で総合診療科の若手医師を対象に5年間にわたり行われた特別講義録をまとめ、書き直されたものとのことである。萩原先生のこのような集積を1冊の本で読むことができることは、読者は何と僥倖なことであろうか。

血液疾患の症例集として、血液病態生理や各種診断基準を参照する本として、若手医師に血液内科を教育する際の参考として、総合診療医や一般内科医のテキストとして、この本は大変優れているであろう。血液内科が得意な医師であれば、一言ひとと言かみしめて読まれるとよいだろう。

この本を読めば、血液内科に対する理解が深まり、鑑別診断が広くかつ深くなり、血液疾患に対する初期対応能力が増し、適切に専門医につなぐことができるようになるであろう。そして、これらのことができるようになるからこそ、患者さんや患者さんの家族にわかりやすい説明をすることができるようになるだろう。

ジェネラルマインドを大切にしている全ての医師、研修医、血液検査技師などに特にお勧めの本である。